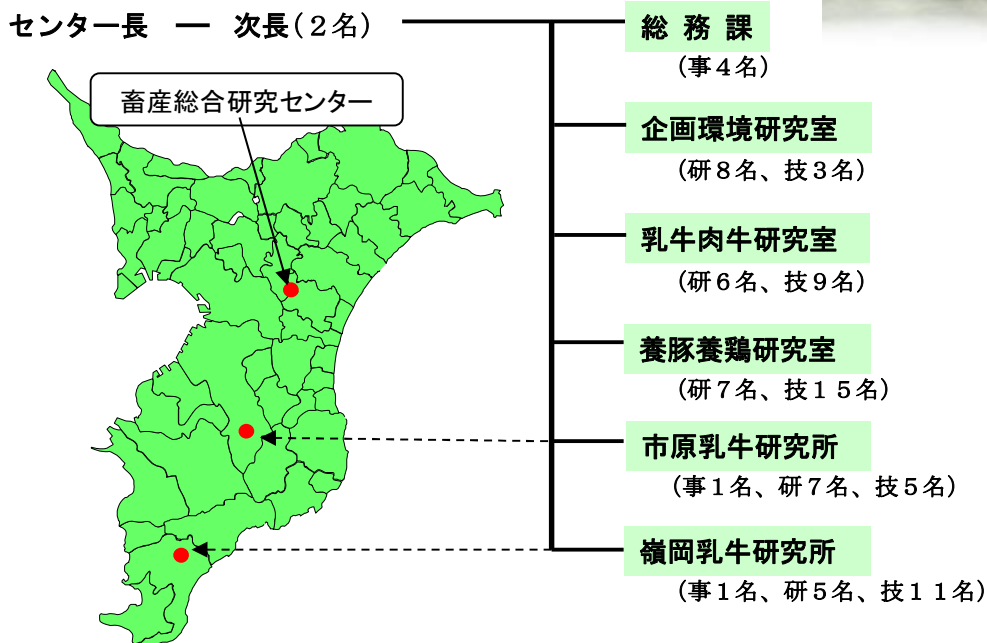


千葉県畜産総合研究センター

当センターでは、良質で安全な畜産物を効率的に生産するため、畜産農家の生産力強化につながる技術開発や育種改良に取り組むとともに、環境や資源に配慮した持続可能な畜産技術の開発を行っています。



組織機構



企画環境研究室

【企画】

試験研究基本方針の策定や研究課題評価システムの運営の他、当センター内外にまたがる業務運営を企画、調整するとともに、普及組織等と連携して、研究成果の普及や研修会による人材育成に取り組んでいます。

【経営】

県内畜産経営の実態把握や開発された技術の定着条件の解明及び経済的評価を行うほか、畜産農家の経営改善に向けた指導も行っています。

【環境】

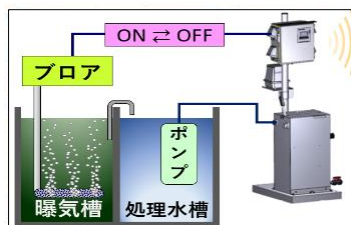
持続可能な畜産業の発展のために、畜舎排水の浄化処理、畜産臭気の高減、堆肥化技術など家畜排せつ物の処理・利用に関する研究を行っています。

【飼料】

自給飼料の増産に向けて、飼料作物の品種比較試験や気候変動に対応した安定的な飼料作物の栽培に関する試験研究を行っています。また農家で生産された自給飼料の分析と飼料給与等の指導を行う、自給飼料分析指導センターを運営しています。



試験研究と普及の連携会議



BOD バイオセンサーの開発



飼料用トウモロコシ収穫調査

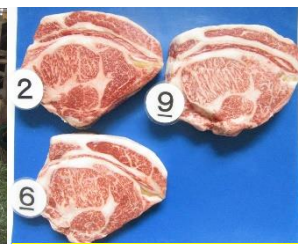
乳牛肉牛研究室

乳牛では、様々な粗飼料の有効利用技術や、乳房炎予防技術の開発など、生乳の生産性を向上させる飼養管理技術の研究を行っています。

肉牛肥育では、肥育牛の早期出荷や自給飼料の活用技術など、牛肉の生産性を向上させる飼養管理技術の研究を行っています。



飼料給与試験



肉質検査

養豚養鶏研究室

養豚では、夏季における繁殖母豚の生産性向上、アニマルウェルフェアに配慮したストレス緩和法について研究を行っています。

養鶏では、産卵後期の生産性向上技術の開発、アニマルウェルフェア対応ケージシステムの検証、さらに採卵鶏主要銘柄の長期飼育比較調査、青玉卵産出鶏の遺伝資源保存還元技術について研究を行っています。



系統豚ポウソウル4



青玉卵産出鶏



市原乳牛研究所

県内酪農家の後継牛を年3回、各期82頭受託し、15か月間の放牧育成と繁殖管理を行っています。

また、集団育成牛群の繁殖技術や管理技術の改善、草地の省力的な周年安定生産体系の確立に向けての試験研究を行っています。

さらに食と農の教育の充実を図るため、児童生徒の体験学習の場として社会科見学を受け入れています。



受託牛の放牧風景



小学生の社会科見学

嶺岡乳牛研究所

県南部の嶺岡山系に位置し、享保年間に徳川幕府が導入した白牛が放牧されたことから「日本酪農発祥之地」として千葉県史跡に指定されています。

現在は、受精卵の効率的利用技術等に関する研究のほか、乳用牛の改良増殖を図るため、優良な乳用牛の受精卵を供給しています。さらに県南部における飼料増産技術に関する研究を行っています。



酪農発祥の地記念碑



受精卵を供給する優良牛群

主な研究成果

- ICTを活用した豚体重測定の省力化実証
- ICTを活用した省力的な乳用牛の分娩管理・繁殖管理
- 乳用牛、肥育牛、肥育豚、採卵鶏、ブロイラーにおける飼料用米の給与技術
- 早期収穫したイネWC Sの泌乳牛への給与効果
- 肉用牛肥育、養豚、養鶏における未利用資源利用技術
- 畜産排水の低コスト脱色技術と硫黄脱窒システムの開発
- 飼料イネ専用品種の収穫時期別収量性と消化性の解明
- 黒毛和種去勢肥育牛のビタミンAコントロール
- 養豚排水中の硝酸性窒素低減技術
- ランドレース種系統豚ポウソウル4
- 酵素剤による採卵鶏の飼料利用率化技術
- 未利用資源による簡易脱臭法
- 飼料用トウモロコシの二期作栽培技術

畜産総合研究センター：〒289-1113 八街市八街へ16-1
市原乳牛研究所：〒290-0531 市原市国本602
嶺岡乳牛研究所：〒299-2507 南房総市大井686

☎043-445-4511 FAX：043-445-5447
☎0436-96-1231 FAX：0436-96-0956
☎0470-46-3011 FAX：0470-46-3012